

第 44 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 7 年 8 月 1 日（金） 午前 10 時半～正午	
開催場所	奈良市役所北棟 402 会議室	
議題	1. 開 会 2. 市民部長挨拶 3. 委員及び事務局紹介 4. 議 事 (1) 会長及び副会長の選出 (2) 令和 6 年度第 2 次奈良市文化振興計画に基づく推進施策の評価について 5. 報告事項 (1) 令和 7 年度主な事業実施について (2) 令和 7 年度の文化施設の指定管理者について 6. その他 (1) 奈良市文化振興補助金について	
出席者	委員	山下会長、藤野副会長、上田委員、風間委員、島委員、関根委員、中島委員 【計 7 人出席】
	事務局	谷田市民部長、池田市民部次長、 (文化振興課) 森課長、吉川課長補佐、徳山総務係長、藤井振興係長、仲川、桑理
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
決定事項	・ 今回の会議録の署名は、山下会長と中島委員が行う。	
担当課	市民部文化振興課	

議事の内容

1. 開会
2. 市民部長挨拶
3. 委員及び事務局紹介
4. 議事
 - (1) 会長及び副会長の選出
山下委員を会長、藤野委員を副会長に選出。
 - (2) 令和 6 年度第 2 次奈良市文化振興計画に基づく推進施策の評価について
資料 1 を用いて、令和 6 年度第 2 次奈良市文化振興計画に基づく推進施策の評価について説明。
〈委員からの意見〉
○推進施策 4-1 アートマネジメント・コーディネート人材育成事業の参加者数について
・ 目標値と実績値との間に乖離が見られる。設定目標が高すぎるのでは。
→目標値に関して令和 8 年度が中間評価の年度である。見直しの際もご意見いただきたい。
・ 人材育成事業には、大きく分けてスキルアップ講座とコーディネーターの養成・育成講座の 2 つがあると思う。漠然と市民向け講座とすると、経験上、何か関わりたいと考えている参加者がいても、その後の行動が分からず、結果的に継続的な関与につながらない。ターゲットをしっかりと絞ったほうがよい。どのように実践と結びつけられるかを検討しつつ、再度制度設計を行えばよいのでは。

- ・何か関わりたいと考える講座等の参加者のため、例えば、参加時にアンケートを実施し、希望する活動内容を把握して、文化施設の運営協力のようなかたちで結びつけていけてもいいかと思う。
- ・文化施設の指定管理者等と文化振興計画推進委員が困りごとなどを聞く機会があればいいかと思った。人材育成プログラム参加者が、具体的に協力できる機会が生まれる可能性もあり、必要に応じて紹介することでもできると思った。

○推進施策 4-2 文化情報発信の充実について

- ・SNS 発信に関して力を入れているとわかるが、市民の方と話すとき世界遺産に関してあまり知識がない方がいた。世界遺産に関する情報発信などを行えば奈良市美術館の集客につながるのではないかと。
- 世界遺産関連でいうと現在奈良市美術館では、「シルクロードの暮らし」展覧会を実施している。NHK 奈良放送局でも内容を取り上げられた。奈良市美術館自体でも SNS 発信を行うほか、奈良市としても集客に繋がるよう約 11 万人登録の奈良市公式 LINE、主要 12 駅に設置のデジタルサイネージ等での広報を行っている。

○委員の事業視察について

- ・事業評価の年間スケジュールとあるが、委員による事業視察はどのようなことを行うのか。まず、文化振興課所管施設等を見学したのち、事業視察を行いたい。
- 事業視察については、事務局にていくつかの事業を選定し、その中から委員の皆さまに選択いただいたものを対象に実施している。事業視察の報告については、例年 2～3 月頃に開催の委員会で報告いただいている。所管施設の見学等は今年度予算が限られているが、検討する。

○文化施設同士の情報交換について

- ・文化施設同士の情報交換機会が少ないと思われる。所管が異なる教育委員会所管の施設等とは、機会がないかと思われる。問題や有益な情報の共有ができる機会が必要。市や県所管など多岐にわたるが一度集まる提案を行ってはどうか。
- 文化振興課所管施設は、年に一度、年度当初に事務長や館長が集まる連絡会議を行っている。以前劇場には県や市の垣根を越えて集まる連絡会議があった。しかしながら、現在は規模が縮小していると思われる。県の方からも所管の垣根を越えて集まる機会があればよいと話があった。そのような機会があればぜひ参加させていただくと話している。
- ・連携を図ることができれば新しい視点を生み出すような企画もできるかもしれない。
- ・公益社団法人全国公立文化施設協会への加入状況や奈良県単位の活動等はどのようなものか。
- 文化施設ごとに加入している。近畿で開催される勉強会などは熱心に参加していると思う。数年前は文化振興課職員も参加があったが、主に施設職員になる。
- ・県や市の縦割りを超えるには、何かしらの協会に加入することがいいと思う。協会が力を失っていくと施設同士がばらばらになってしまう。そのようなときに行政がどのように補完するかが課題である。
- ・協会などの大きな組織がないとなれば、小さな施設同士の連携を活性化させるために応援しているという姿勢を見せていくことも大切。横ぐしを刺すように、連携をとって情報交換や課題の共有ができたらと思う。ただ、予算をつけるだけでは厳しい側面もあることから、知恵を絞って何とかやっていきたい。
- ・取りまとめや調整を担うことこそが公共の力であり、民間では対応が難しい場面において、公共が主体的に声掛けや歩み寄りを行っていただけたらと思う。

7. 報告事項

(1) 令和 7 年度主な事業実施について

資料 2 を用いて、令和 7 年度主な事業実施について説明。

〈委員からの意見〉

・令和 7 年度文化芸術振興費補助金文化芸術創造拠点形成事業が不採択であったとのことだが、どれくらいの期間採択され、金額規模はどのようなものか。

→文化振興課としては、今回初めて不採択であった。金額については、例年 1,000 万程度助成をいただいている。

・来年度補助金獲得に向けて戦略的に行う必要があり、不採択の原因分析も必要である。

→地域に根づいた専門人材育成に関する記述をもう少し具体的にする必要などがあったと思われる。

・来年度の申請に向け、報告書作りにライターなどを伴走させてもいいかと思った。

・人材育成は非常に難しいと感じている。何をもってして育成されたかなどあるが、イベント参加をきっかけに、その後の活動に波及が生まれることがある。参加者が再会する機会をつくり、その後の成果を可視化できる仕組みがあればと思った。

・大学で学生に調査やアンケートを作成させそれを分析するというような授業を行っている。関心のある学生もいる。報告書作りには労力と費用をかけるべき。

・奈良という土地の強みがあると思う。文化庁側が期待する人材が育っているとわかる内容で何か新たな企画もできれば補助金獲得に繋がると思う。

・様々な事業をしていることが分かったが、文化施設に所属している学芸員等に講座を開催してもらう際、個別に相談するのではなく、派遣する事業はないか。

→市の事業で「奈良市まちかどトーク」という市民のみなさまに市政に対する理解と関心を深めていただく派遣事業を実施している。お聞きになりたいテーマを選んで申し込んでいただくと、調整のうえ担当の職員が出向いて市政や市の事業等を説明する。当課の所管テーマでは、学芸員を派遣させているものがある。

(2) 令和 7 年度の文化施設の指定管理者について

今年度 2 つの文化施設指定管理者が変更となった。

奈良市音声館は「奈良町くりえいと」、奈良市名勝大乗院庭園文化館は「株式会社ジェイアール西日本ホテル開発」となった。

8. その他

(1) 奈良市文化振興補助金について

資料 3 を用いて、文化振興補助金について説明。

奈良市文化振興計画推進委員会規則及び奈良市文化振興補助金交付要綱に基づいて、利害関係を有しない藤野委員（副会長）、上田委員、関根委員、山下委員（会長）の 4 名を文化振興補助金の審査部会の委員として、会長が指名した。

〈委員からの意見〉

・補助金額の規模はどの程度か。

→おおよそ例年 1,500 万円～1,800 万円の補助金額を予算化しているが、都市文化推進支援事業の国際発信型の限度額が 800 万円であり、その採択次第で増減する。

以上、議題終了